

# キャリアアップに資する教育訓練（説明用シート）

派遣業務内容	研究機関における実験補助業務
派遣業務の具体的内容	実験補助業務全般（DNA、蛋白質、酵素、生体等を扱う各種実験、生体飼育／育成管理、器具洗浄、物品管理、データ入力など）

	入職時～1年目	2年目	3年目	4年目以降
(1)必要とされる共通のキャリアパス（求める人材要件）	職務手引書（マニュアル、実験プロトコル）に従って、正確に作業ができる。	作業の基本を理解し、後輩に教えることができる。	やや高度な実験に携わることができ、職場の課題を発見し、改善提案を行うことができる。	さらに高度な実験に携わることができ、チーム全体の仕事を俯瞰し、業務を円滑に進めることができる。
(2)(1)に必要なスキル、資質等	研究室における基本的なルール 安全衛生知識 実験器具の操作方法	新しい実験技術の定着 コミュニケーション能力	新しい実験技術の定着 実験方針の企画立案	新しい実験技術の定着 実験方針の企画立案 リーダーシップ
(3)教育訓練内容 （上段：様式3号-2具体的な教育訓練、中段：上段の内容のわかる事項、下段：訓練計画時間）	a 新規採用者研修 実験補助の仕事について（概要） 2時間	a 実験技能基礎研修 水溶液の調製と試薬の計算 計測作業とデータ取り扱い 4時間	a 実験技能基礎研修 DNA抽出法 電気泳動 4時間	a 実験技能基礎研修 無菌操作 PCR（ポリメラーゼ連鎖反応） 4時間
	b 実験技能基礎研修 実験用消耗品の滅菌と器具洗浄 2時間	b 実験技能向上研修 派遣先で新たに習得した技術についてレポートし、内容について講師とディスカッションを行う 4時間	b 実験技能向上研修 派遣先で新たに習得した技術についてレポートし、内容について講師とディスカッションを行う 4時間	b 実験技能向上研修 派遣先で新たに習得した技術についてレポートし、内容について講師とディスカッションを行う 4時間
	c 実験技能基礎研修 微量の液体の取り扱い （ピペットマンの使い方） 2時間			
(4)期待される教育訓練の効果／到達すべき知識／技量レベル／キャリアアップにつながる理由	実験補助の仕事についての概要を学習することで、研究所での仕事をスムーズに開始することができる。消耗品の滅菌や器具洗浄、ピペットマンの取り扱いができることで終業後すぐに実験補助の実務につくことができ、専門的な知識や派生した実験スキルを習得できる。	水溶液の調製と試薬の計算を学習することで、研究室で用いる各種緩衝液等の作成業務を行うことができる。また、計測作業とデータ取り扱いのルールを学ぶことで派遣先研究者に安心してデータ取りや入力を任せられることができ、表計算ソフトの実務的なスキル習得にもつながる。派遣先での業務で学習した新たな実験技術について背景や原理まで調べてレポートにまとめ、さらに講師とディスカッションすることで、実験内容について深く理解したうえで取り組むスキルを習得できる。	動物・植物・微生物など各種細胞からのDNA抽出法を学習することで、どのような細胞でもDNA抽出の業務を行うことができる。また、電気泳動を学ぶことでさらに高度なDNA取り扱い業務を行うことができる。派遣先での業務で学習した新たな実験技術について背景や原理まで調べてレポートにまとめ、さらに講師とディスカッションすることで、実験技術の原理と目的を深く理解したうえで実験計画を立案するスキルを習得できる。	無菌操作を学ぶことで、クリーンベンチを用いた培地作成や、危険性のない実験用微生物の取り扱い業務を行うことができる。PCR（ポリメラーゼ連鎖反応）の原理を学習することで、小さなトラブルを自力で解決しながら実験を進めることができるようになる。派遣先での業務で学習した新たな実験技術について背景や原理まで調べてレポートにまとめ、さらに講師とディスカッションすることで、実験技術の原理と目的を深く理解したうえで実験計画を立案し、チーム員に説明しながら作業を進めるのに必要なリーダーシップを習得できる。
合計	6時間	8時間 （aが不要の場合は4時間）	8時間 （aが不要の場合は4時間）	8時間 （aが不要の場合は4時間）